



令和8年7月
たちばなこども園

看護師 綱嶋友子



これから本格的な夏がやって来ます。暑い日が続いていますが、こども達は元気に遊んでいます！これからの時期は熱中症のリスクが高まります。体調管理とこまめな水分補給を心がけていきましょう！

夏の3大感染症

ウイルス感染によって起こる病気です。他人への感染力も強いので、必ず病院受診をして医師の診断を受けましょう！

プール熱は登園時「登園許可証」が必要になります！

●ヘルパンギーナ

高熱が2～3日続く。^{のど}喉の痛み。
特に喉は水疱や潰瘍ができるため、かなり痛む。(喉の痛みがひどく飲食ができないことがあるため、脱水に注意)

●咽頭結膜熱(プール熱)

原因はアデノウイルス。38度以上の熱が3～5日続く。^{のど}喉の痛み、結膜炎(充血、眼の痛み、かゆみ)のような症状が出る。※タオル等を家族と共有しない。

●手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな発疹や水疱ができ、お尻など皮膚の柔らかいところに出て痛みやかゆみが伴うこともある。発熱することもある。

夏風邪のウイルスに効くワクチンや特効薬はなく、ウイルスが原因のため抗生物質も効果がありません。そのため基本の予防は感染者との接触を避けること、手洗い、うがい、タオルを共有しないことです。

6月 園に出た感染症

アデノウイルス(嘔吐、下痢)・・・すみれ組1人
溶連菌・・・花組1人

クーラーと自律神経

人間の体は急激な温度変化が苦手です。7℃の寒暖差で自律神経が乱れるといわれています。外の猛烈な暑さと冷え冷えの室内…大きな寒暖差を繰り返していると自律神経が乱れ体のだるさ、頭痛、冷え等を引き起こします

●外気と室内の温度差は5℃までに

●夏でも、ぬるめの湯舟に入り

体を温め一日の疲れを取りましょう！



夏の皮膚トラブル

😓 とびひ

アトピーやあせも、虫刺され、擦り傷などを手で触ったりかいたりすると皮膚の表面に複数の細菌が付着して繁殖し、皮膚がただれたり水ぶくれになったり、かさぶたになったりします。また、患部を触った手で体の他の場所に触ると感染がさらに広がります。

なかでも黄色ブドウ球菌は高温多湿を好むため、夏になると流行します。



かいてしまう場合は絆創膏やガーゼ(広範囲の場合)で保護し患部に直接触れないようにしましょう。状態が悪い、広範囲の場合は病院受診をしましょう！

※広範囲で悪化している場合や他の子にうつしてしまう可能性がある場合は登園できないこともあります。